



ピンチをチャンスに～子供たちの共感性と主体性を高める～

校長 平野哲士

本日、ご多用にも関わらず、課題配布にご理解・ご協力方、ありがとうございました。

このような状況下、改めて「当たり前」と思ってきたことが、実は、どんなに素晴らしく、幸せなことであったのかと、つくづく思う次第です。

新年度を迎え、始業式・入学式を迎えるや、翌日から臨時休校となってしまいました。子供たちのいない学校は、大変寂しく、私たち教職員は、「学校が再開したら、子供たちと〇〇に取り組みたいですね。」と、再開を楽しみにしているところです。

「ピンチ」を「チャンス」に

今後、休校が終了し、学校が再開する際は、今まで取り組んできた、こまめな手洗いやうがい、早寝早起き、確かな食生活など、免疫力を高め、それを基盤に感染防止に取り組むことを継続し、感染症から自分も友達も守っていくという姿勢をもち続けてまいります。

さて、「3密を避ける」ことは、今まで本校が大切にしてきた、「子供たち同士の思いや考えのやりとり（かかわり合い）」ができなくなるのでしょうか。私はそうではないと考えます。しばらくは、他とある程度の距離を取らざるを得ません。先日実施の職員会議もそうでしたが、緊急事態宣言解除後にできるだけ早く実施したいと考えている保護者会等も、学年ごとに体育館で行います。昨年度まで積極的に授業で取り組んできた、物理的距離を縮めた「ペアやトリオ」でのかかわり合いは、難しくなります。「ピンチ」です。しかし、相手との距離が決して縮められずとも、友達の発言を共感的に受け止めてうなずいたり、にこっと笑顔を表現したり「ノンバーバル」を活用し、心理的な「密」を大切に、自身の心の在り様を振り返り、互いに表現し合うことで、他を受け止める意味や意義を今まで以上に感じてもらえる「チャンス」であると捉えます。この機会に、子供たちの「共感性」を高めてまいります。

学校再開にあたり、授業時数確保に注意が注がれますが、まず、学級づくりに取り組みます。第6学年以外は全て新たな学級集団です。もち上がりの6年生であっても、子供たちは成長しています。子供たちと教員の関係、子供たち同士の関係づくりを基盤に、学び合いが随所に見られる授業を通して、時数を確保してまいります。教員と保護者の皆様との関係づくりも大切と考えます。宣言解除後、できるだけ早く保護者会を実施し、教員の思いや考えを保護者の皆様と共有したいと考えます。

課題への取り組みを通して子供たちの主体性をはぐくむ

本日、5月11日以降の課題をお渡しさせていただきました。

前回までは、主として、前年度の学習に関わる復習《未修の内容も一部入れました》が中心でした。さらに休校が長引くため、この度は、本来4月、5月に授業を通して学ぶ内容等に子供たち自身が取り組むということに重きが置かれます。示された量をこなすことはもちろん大切ですが、主体性をはぐくむ「チャンス」です。例えば、子供たちに、一週間や一日の取り組みスケジュール（時間割等）を考えて実行させるなどもできるかもしれません。取り組み後の振り返りから、自分にふさわしい課題の量や取り組み方法を見つけていけると思います。未修の課題に少しでも取り組めるよう、各学年の「取り組み説明書」のようなものを添えました。図工や音楽の課題もあります。体育の資料、テレビやネット（本校HP掲載）、図書室の図書（本日貸出済み。次回も予定あり。）も活用してください。11日から、教員は、輪番で出勤しております。なにかございましたら、御遠慮なくご連絡ください。

※スクールカウンセラーにご相談もできます。樋口副校長〔Tel03-3912-2868〕にご連絡ください。

○5月実施予定であった運動会は、秋に延期して実施する予定です。

○4年岩井移動教室、5年岩井自然体験教室、6年日光高原学園は、中止となりました。

